

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091100760		
法人名	社会福祉法人 福岡白百合会		
事業所名	花畑ホーム アイナリーケア グループホーム		
所在地	福岡県福岡市南区太平寺2-37-18		
自己評価作成日	令和7年4月25日	評価結果確定日	令和7年6月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php">http://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市南区井尻 4-2-1 関ビル1F	TEL:092-589-5680	HP:http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	令和7年6月16日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Alt+enterで改行出来ます)

<p>ご利用者の方の「できること」「やりたいこと」に着目し、どうしたらそれが実現できるのかを、ご利用者・職員が一緒になって考え、少しでも笑顔多く、安心して過ごして頂けるように日々努力しております。 職員間の「風通し」の部分についても、管理者が職員それぞれに定期的に話をしながら、業務の改善やご利用者の支援内容を都度検討していくように、話しがしやすい環境づくりを頑張っています。</p>
--

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>同一敷地内に、特別養護老人ホーム、短期入所生活介護、通所介護、居宅介護支援事業所があり、事業所近隣には公園やスーパー、保育園等がある緑の多い場所に「花畑ホーム アイナリーケア グループホーム」は建っている。事業所が開設して一年未満ではあるが、母体に特養があり、地域との関わりもあるため、地域の行事に参加をする機会を持っている。非常時の対策としては、関連事業所との協力体制があり、どのような手順で避難をするか、各事業所と連携をしている。協力医は24時間対応で、看取りの体制もあるため、心身状態等によっては最期まで事業所で過ごすという選択をする事も可能である。今後は、地域との関わり方や連携体制等に取り組みもうという姿勢が感じられ、今後は益々地域の核となる事業所になることが期待できる。</p>
--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設開設時に当時のオープニングスタッフとグループホームとしての方針やご利用者の支援についてなどの研修を行っている。その後も職員の入れ替わりがあっているが、管理者や看護副主任と共に指導、教育を行っている。	母体の特養の方針を基に、事業所としての理念を定めている。昨年8月に開設した時に、全職員に対して理念の研修を実施している。開設して1年弱のため、来年度に理念の共有と実践の研修を開催予定である。毎週月曜日に特養と合同で理念の唱和をしたり、事業所内では、理念に添って支援をしていこうと確認し合う機会を持っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流はできていないと思うが、民生委員の方からお話を頂き、地域の小学校のお祭りに参加している。	2か月に1回の運営推進会議の際に、地域の行事について情報提供を求めている。昨年10月下旬に小学校でお祭りがあるとの事で、利用者をお連れし、輪投げ、ヨーヨー釣り等に参加したり、近くの公園で桜の時期に桜祭りがあるので、今後は参加を考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、民生委員の方や地域包括の職員の方へ、当施設の活動や支援についての意見交換を行っている。広報誌を毎月ご家族へお届けし、施設でのご利用者のご様子が分かるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動状況の報告以外にも、ヒヤリハット等の事故報告を行い、今後の対応としての意見を頂いたり、ご家族からも意見を頂き、面会時に都度報告をしたりと、ご利用者の生活状況がわかるようにしている。	民生委員。地域包括支援センター職員、施設長、管理者、計画作成担当者、利用者、利用者家族が参加をされている。家族からは面会だけでは分からない事業所での生活状況の説明があるため、参加に積極的な利用者家族もいる。参加をされない家族には、面会時に家族に報告をするようにしている。	運営推進会議の議事録は、個人情報に配慮しつつ、事業所の入り口付近に据え置く等、公表するようにしてはどうだろうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	以前生活保護の方を受け入れた際には、保護課の職員と密に連絡を取り、行政にも、制度上の問題等で分からない事があれば、連絡し確認をとるようにしている。	生活保護受給の利用者が受診に行く時に生活保護課のケースワーカーと連携を図った事がある。また、生活保護制度について分からない事を行政に聴く等、連携を図っている。おむつサービスの利用対象者には制度の紹介をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束や虐待防止についての研修を定期的に行い、議事録に残している。参加できなかった職員が見れるようにもしている。	現在、身体拘束をしている利用者はいない。離床センサーが全居室に導入されている。センサーが鳴るタイミングを観察して調整している。センサー導入に関しては、センサーを導入している事を口頭で家族に説明したり、ケアプランにも入れている。「身体的拘束等適正化のための指針」を作成し、毎月「身体拘束適正化委員会」を開催している。	

R7.6自己・外部評価表(事業所名 花畑ホーム アイナリーケア グループホーム) 確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修を行う事により職員全員が虐待防止についての認識を持つようになっている。ご利用者の状態等で虐待について職員が相談・報告できるような環境や体制整備を行っている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	介護職員が制度等に分れる事は少ないが、研修計画を立て、外部研修を受講したり、内部研修等で理解を深めていけるように取り組んでいる。	年数回、法人で外部講師を招いて研修会を開催しているため、その研修に参加をしている。研修に参加が出来なかった職員に対しては、事業所内のミーティングの際に、伝達研修を実施している。	利用者家族や地域の方々から、成年後見制度や日常生活自立支援事業の事について問われた際に回答できるように、パンフレットを準備してはどうだろうか。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行い、ご理解を得たうえで、署名・捺印をして頂いている。またご質問等があれば、説明を行い、制度等の問題点であれば、確認し、ご家族へご報告している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置していること。また、運営推進会議で、ご家族の方にもご意見を頂き、それらを活用している。	利用者から、「もっと仲良くなったら良いのにな」との意見が出たため、利用者同士の間関係の観察をしたり、職員から利用者への声掛けに気を付けようと確認し合う機会を持っている。利用者家族から外出や外泊の希望があった場合は、事業所内で検討して極力実施出来るようにしている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者から、他の職員へ業務内容の改善や、支援方法等の検討を聞き取り、毎月1回、委員会を開催し、報告・検討を行う。決めた内容をフロアミーティングを通して、周知をしている。	毎月のフロアミーティングの中で、職員が運営に対して意見を言える場がある。年2回、「個人目標」を各職員が設定して、管理者が面談を実施して目標に対して達成度の確認をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員それぞれに目標を設定してもらい、その目標に対して管理者と職員で面談をして、管理者からの意見、また職員から管理者へ改善してほしい点などを話し合っている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別や年齢等で排除はしていない。職員全員が今まで得てきた介護の知識や、経験を職員全員で共有をしながら、意見を交換し合い、ご利用者との良好なコミュニケーションを築いていけるように努めている。	母体の特養で勤務していた職員が異動で勤務している。採用に関しては性別や年齢等で排除せずに取り組んでいる。利用者で園芸が趣味の方がおり、職員も園芸が出来る職員がいたので、利用者と共に育てて収穫する様な事に取り組んでおり、職員の特技を生かした取り組みをしている。	

R7.6自己・外部評価表(事業所名 花畑ホーム アイナリーケア グループホーム) 確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	毎月の委員会において、ご利用者の日常生活の様子や他のご利用者との人間関係等情報交換を行い、それに基づき、支援内容を検討したり、実施していくようにフロアミーティングを活用し、ケアを行っていくように努めている。	年数回、法人全体で人権に関する研修会を開催している。身体拘束廃止や高齢者虐待防止の研修内容と同時に実施している。研修に参加出来なかった職員には伝達研修を実施している。職員主体ではなく利用者主体の生活の場であるという事を職員に常々意識づけをしている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の研修に参加をしたり、内部の研修では事例をもとに職員それぞれから意見をもらい、理解度を深めてもらうように努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	開設前には他のGHの見学をさせて頂き、開設後も、他施設へ質問し回答を頂いたり、サービス内容や制度等で色々と教えて頂きました。中には、直接施設に見学に来て下さり、他施設と、どう違うのか意見を頂きました。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントを行い、ご本人の要望等を確認している。入居後も、職員がご本人のお話を傾聴し、不安や不満がないように努め、職員が間に入り、他のご利用者とのコミュニケーション等、良好な関係が築けるように努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学の際や契約時に意向等の聞き取りを行っている。面会時には、職員からご本人の様子をお話をさせて頂き、安心して頂けるように努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設見学時や、事前の面談等でADLを把握し、それをふまえてプランを作成、ご家族へ説明している。また、ご本人が「買い物したい」と要望があれば、月に2~3回、買い物の付き添いをしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみや、館内の清掃、玄関前のお花への水やり等、ご自宅でもされていた事が続けていけるようにしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の役割をお伝えし、協力して頂く事をお話し、実践している。		

R7.6自己・外部評価表(事業所名 花畑ホーム アイナリーケア グループホーム) 確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や電話でのやり取り、また、ご本人のご友人等の面会希望があった際は、居室にてゆっくりとお話ができる環境作りを行っている。	日中は面会が可能な体制である。利用者自身が携帯電話を持っていて、居室で電話をしたり、利用者家族から事業所に直接電話があり、利用者に取り次ぐこともある。家族だけでなく利用者や利用者家族の了承を得て、地域の方々が面会に来られている利用者もいる。毎月「花畑ホームアイナリーケアグループホーム便り」を作成し、近況報告や利用者の写真を添付して家族にお渡ししている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクや行事を通して、ご利用者同士が関り支えあえるように職員が気づきを持ち、日常的に支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご利用終了後も、なにかあればご相談にのる事をお伝えしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時にはもちろんの事、ご本人からの要望や状態の変化時には内容の検討、ご家族への報告を行っている。また確認困難の場合は、その時の状態を見ながら検討している。	家族が事業所見学に来られた際に、どのような生活を望むのか利用者及び利用者家族の意向を聴くようにしている。家族が面会に来られた時に、利用者の今までの生活状況を聴くようにしている。何かケアの変更がある際には、利用者や利用者家族に事前に相談をしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご自宅での様子等、入居前の様子をご家族や他施設職員等から聞き取りしている。またご本人からも直接聞き取りをし、把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人のできる事に着目し、その日の様子等を見ながら、洗濯物たたみや掃除、お花への水やり、職員と一緒にものづくりをしたりと、取り組んでいる。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や、ご家族、主治医、また介護職員からの意見を聞き取り、管理者・看護副任・ケアマネを中心として検討し、ケアプランを作成している。	アセスメント作成からサービス担当者会議の開催、ケアプラン作成やモニタリング等のケアマネジメントの一連の書類は、計画作成担当者が作成している。ケアの方針等については、月1回のフロアミーティングの際に職員にも確認する機会を持っている。利用者家族の意向は、家族が面会に来られた際に確認している。職員にもケアプランを回覧しており、ケアプラン内容の周知を図っている。	

R7.6自己・外部評価表(事業所名 花畑ホーム アイナリーケア グループホーム) 確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護ソフトを使用し、気づきの点を入力している。また、フロアミーティングを活用し、情報の共有に努めている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設で特養やショートステイ等がある為、今後状態の悪化等で、ご家族が特養等を望まれる際は、情報の共有はスムーズにできるかと思う。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお祭りや行事に参加や見に行ったりと、ご本人の気分転換もかねて、地域との繋がりが少しでも実感できるように努めている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族が以前からのかかりつけ医を希望される場合は、定期的に受診の対応をお願いしている。また、その他の方に関しては、協力医の訪問診療(月2回)を実施している。	以前から受診していた医療機関に受診をする事も可能である。その際は、受診の付き添いや通院支援は家族にお願いしている。利用者の身体状態によっては通院介助は事業所で支援する事もある。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤で看護職を配置しており、管理者・ケアマネ・介護職と連携しながら、常にご利用者の状態の把握に努め、何かあれば、看護職からDrに報告・相談をしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院をされた方はまだいませんが、月1回の医師・看護職だけでなく、管理者や介護職も交えて、カンファレンスを実施し、状態の変化等があった際の対応等を話し合っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期について、契約時にご家族へ説明・意向確認書を取り、ご理解のうえ、署名・捺印を頂いている。また看取りの対象となった際には、状態変化時には、ご家族へ状態の報告をさせて頂き、主治医を含めて話し合いの場を設け、ご家族の希望に寄り添えるように配慮している。	開設当初から看取りの体制がある。「花畑ホーム アイナリーケア グループホーム終末期の看取り等について(事前確認書)」を使用して、利用者及び利用者家族の意向を確認している。また「ターミナルケアマニュアル」「看取りに関する指針」「重度化対応方針」を作成している。夜間帯でも管理者や看護師とのオンコール体制があり、必要に応じて協力医に連絡出来る体制である。	

R7.6自己・外部評価表(事業所名 花畑ホーム アイナリーケア グループホーム) 確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員へ応急手当や急変時の対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体で、年に3~4回避難訓練を実施している。実際にご利用の方にも参加して頂き、一緒に避難をして頂いている。	火災、風水害、地震に対しての避難訓練を実施している。夜間想定避難訓練を実施したり、消防設備業者の立ち合いをしてもらったりしている。消防設備業者から講評をもらって、改善点の提案をもらっている。法人内での協力体制も構築して、それに基づいて避難訓練を実施して、改善点を話し合っている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年間の研修計画にも取り入れ、また事例等を用いて、職員と意見交換をしながら、理解を深めていくように努めている。	入浴介助は極力、同性介助をするように取り組んだり、排泄介助に関しては、トイレの出入りの際にはノックをしたりして対応している。居室に入室する時は利用者に声掛けをしている。利用者に対しては、畏敬の念を持って対応するようにしている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症の症状が進行していたとしても、なるべくご本人の意思を汲み取れるようにお話を傾聴し、表情をうかがいながら、支援をさせて頂いている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人が集中してできる事や趣味としていた事を聞き取りや観察していく中で確認していき、なるべく希望に沿えるように支援をしていく事が重要であると、職員全員に周知をしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	なるべくご本人に決めて頂けるように、職員と一緒に衣服等を選んだり、ご本人の意思を尊重しながら、支援をしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	併設特養の厨房にて、管理栄養士の献立による調理された食事の配膳・盛り付けを職員が行っている。出来るだけご利用者の協力もお願いし、共同作業を通じてコミュニケーションを図っている。	母体の特養から食事が提供されている。食後の台拭き等、利用者が出来ることはしてもらっている。誕生日会の時にお菓子作りをしたり、月1回はバイキングがあったり、セレクトメニューがあり献立を選ぶ事も出来る機会がある。お菓子の差し入れは可能であるため、職員がお預かりして利用者へ提供している。利用者の申し出があれば、職員と一緒に買い物に行く機会を持つことが出来る。	

R7.6自己・外部評価表(事業所名 花畑ホーム アイナリーケア グループホーム) 確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量の記録をとり、水分量が足りない際は水分をすすめている。また、水分を取りたがらない方に関しては、紅茶を差し上げたりと工夫している。食事量の低下等あった際は、主治医に相談している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	基本ご自分で口腔ケアをされる方が多いが、職員が対応する方もいる。歯のぐらつき等、口腔内の確認をしており、定期的に歯科往診をお願いしている方もいる。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を確認し、ご利用者の排泄パターンや尿量等を把握し、定時での声掛けを行うようにしている。ご家族にも報告し、対応の説明をしている。	排泄チェック表を作成して、排尿や排便の時間帯をチェックして、いつ頃排泄があるか予測して対応している。実際に排泄チェック表を活用して、トイレ誘導の時間を工夫した事で、失禁が少なくなった事例がある。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	処方された便秘薬を使用するが、水分をすすめたり、体操やマッサージ等を行い、自力排便を促している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は基本、週に2回の予定を組んでいるが、ご希望があれば、回数を増やしたり、日にちを変更したりしている。	週2回、入浴の機会がある。リフトが必要な利用者にはリフト浴でも対応出来る体制である。入浴剤を利用したり、菖蒲湯等の季節に対応したりしている。利用者や利用者家族からの希望があれば、好みのシャンプーやリンスを使用する事も可能である。利用者の希望があれば同性介助も可能である。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後、声掛けを行い、居室にて休む時間を設けている。ご利用者の方が「寝ない」と言われた時は、お茶を提供したりと、ご本人の時間を大事に過ごしてもらえるように配慮している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の変更等があった際は、様子観察にて状況の把握に努め、職員全員に周知をするように、管理者、看護職で対応している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者の方達のやりたい事、お話の中で伺っており、好きなテレビを見たり、洗濯物たたみや館内の清掃等、積極的にされている。ご利用者からは「いつでも言ってね」と言って下さる方が多い。		

R7.6自己・外部評価表(事業所名 花畑ホーム アイナリーケア グループホーム) 確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族と定期的に外食に行かれたり、職員と一緒に近くの公園(運動公園や園芸公園他)へ日常にお散歩の支援もやっている。	利用者家族と外出したり外食をしたりする利用者もいる。敷地内の散歩や近隣の公園に散歩に行く機会もある。利用者が何か買いたいと申し出があった際に、一緒に買い物に行ったり、ドライブに行くこともある。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者の金銭管理は原則ご家族が対応してもらいようにお話をしている。ご家族からもご相談があったが、なくなってしまう事や、それが原因でトラブルになるリスクが高いことを説明している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方はおり、時間を決めてご自分で連絡をされている。手紙のやり取り等ははまだ、実践できておらず、今後のレクリエーションの一つとして考えていきたい。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間に関しては、毎日の清掃を職員、ご利用者の方と一緒にやっている。また、季節や時期に応じて、ご利用者の方と一緒に創作した物を飾り、面会時にはご家族が見れるようにしている。	テーブル、椅子、ソファ、ラジカセ、テレビ、カラオケ設備、トイレ、洗面台がある。食事中に音楽が流れており、空間が広く採光にも富み明るい雰囲気である。テーブルに季節に応じた花が飾ってあり、壁には四季に応じた作品が飾られている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席の他に、ゆっくりとくつろげるようにソファを設置し、過ごされている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自分が長年愛用していた物や、依頼があった物を持って来て頂き、ご自分の部屋であることがわかるようにし、時にはお部屋でゆっくりと過ごせるように配慮している。	介護用ベッド、エアコン、電灯、カーテンが備え付けられている。テレビや筆筒、テーブル、椅子、写真、鏡、お花等、馴染みの物や好みの物を持ち込んでいる。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内各所に手すりを設置し、ご利用者の方が館内を歩いたり、手すりを使っての屈伸運動等をされている。また、ホールや各居室が見えやすいように事務所を中央にして居室を配置し、何かあった際にはすぐに駆け付ける事ができるようにしている。		